

堀の内町3丁目自治会地域におけるアンケート調査と自治会住民との懇談会

自治会との協調に基づく地区スケールの住環境マップの作成手法と利用可能性に関する研究

その4

正会員 猪熊周平*1
同 水野 歩*2
同 久保田 徹*3
同 三浦昌生*4

住環境マップ 自治会 アンケート調査
住民参加

1. はじめに

前報に引き続き、本報では堀の内町3丁目自治会地域の住民を対象としたアンケート調査と、全調査終了後に行った住民との懇談会の結果を報告する。

2. 住民を対象としたアンケート調査

同地域の全664世帯を対象にアンケート調査を行った。アンケート項目は、実測調査を行った環境要因や、その他の環境要因、さらに堀の内町3丁目の将来像を聞く質問で構成した。それらの項目は、自治会との話し合いや、その後の数回に及び自治会代表者との話し合いをもとに検討した。

アンケート票は直接投函によって配布し、郵送によって回収し、301世帯(回収率45%)から回答を得た。回答者は60代が26%で最も多く、男女比は約4:6で女性の方が多かった。また平均居住年数は25年であった。

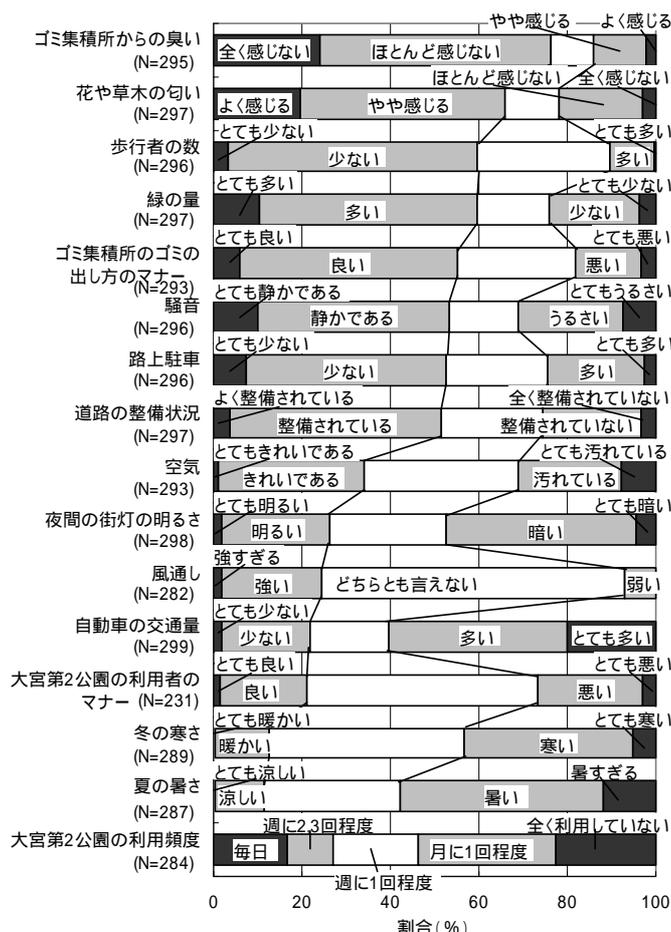


図1 住まい周辺の環境に対する意識

住まい周辺の環境について聞いた結果を図1に示す。花や草木の匂いは「よく感じる」、「やや感じる」を合わせた回答が66%、緑の量は「とても多い」、「多い」を合わせた回答が60%と、同地域内に立地する大宮第2公園や住宅地内に自然が多いと感じている回答者が多かった。自動車の交通量は「多い」、「とても多い」を合わせた回答が60%、夜間の街灯の明るさは「暗い」、「とても暗い」を合わせた回答が46%であった。次に、騒音で「うるさい」、「とてもうるさい」を選択した回答者にどのような音をうるさく感じているのかを図2中の項目から複数回答可として聞いた。「自動車の音:75%」、「暴走行為で発

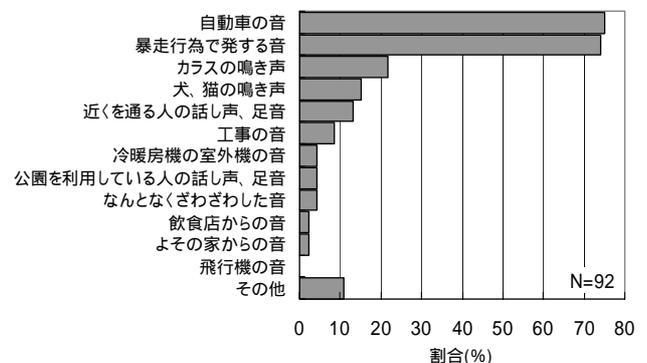


図2 うるさいと感じる騒音要因(複数回答可)

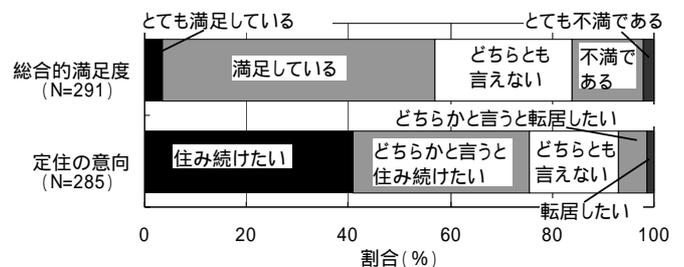


図3 住まい周辺の環境の総合的満足度と定住の意向

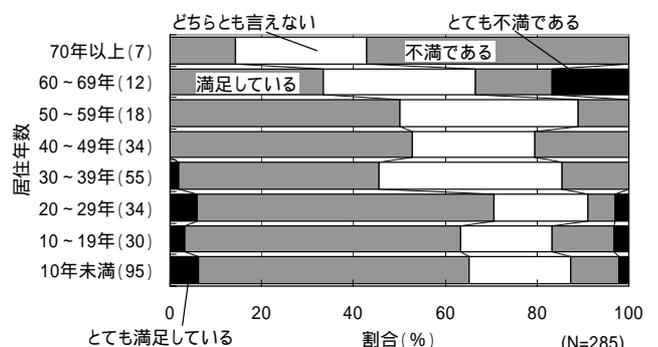


図4 居住年数別にみた住まい周辺の総合的満足度 (括弧内はサンプル数を示す)

A Questionnaire Survey and a Discussion with Residents in the Self-Governing Body of the Horinouchi District
A Study on the Creation Technique and its Availability of the Living Environmental Map at a District Scale based on a Cooperation with the Self-Governing Body Part 4

INOKUMA Shuhei, MIZUNO Ayumu, KUBOTA Tetsu, MIURA Masao

する音：74%」と道路騒音に関する項目が他の項目を大きく上回った。

住まい周辺の環境の総合的満足度と定住の意向を聞いた結果を図3に示す。総合的満足度は「とても満足している」、「満足している」を合わせた回答が57%、定住の意向は「住み続けたい」、「どちらかと言うと住み続けたい」を合わせた回答が75%と高かった。また、居住年数別に総合的満足度(図3)を集計すると、全体的に居住年数が長いほど満足度は低い(図4)。これは、居住年数が長い住民ほど以前の良好な環境を知り、それと現状とを比較したためと考えられる。

次に、堀の内町3丁目の将来像として望ましいものを図中の項目から複数回答可として選択させた。また、その際には「特に強く思うもの」一つを別途聞いた(図5)。選択率は6%から60%まで幅広く分布し、全く選ばれなかった項目はなく、特に「バスの便が良くなってほしい」:

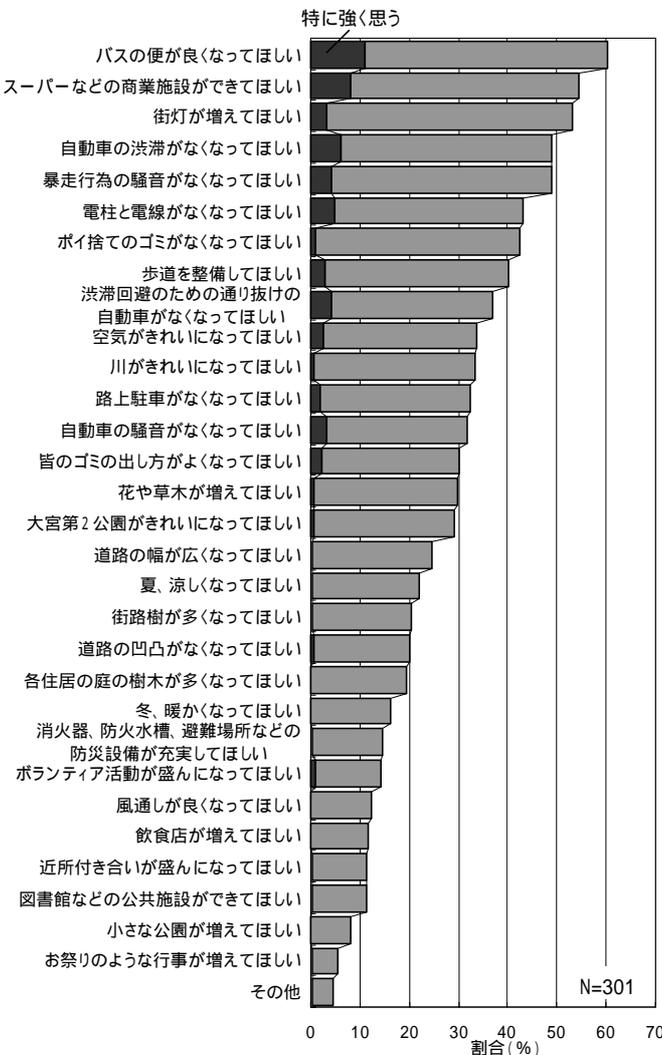


図5 堀の内町3丁目の将来像(複数回答可として、その中から「特に強く思うもの」を1つ選択)

表1 住民との懇談会における主な意見・感想

<p>住環境マップの表現方法に関する意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 騒音レベルや環境基準などは、数字と単位だけではなく、感覚によって表されていると分かりやすい。ただし、誰もが同じように解釈できるような表現とし、誤解を招くことのないよう留意すべきである。 アンケート調査の質問の中に、夏の暑さ、冬の寒さ、総合的満足度など、質問が曖昧で、捉え方が難しく答えづらいものがあった。 アンケート調査では、各問ごとに自由記入欄を設けるのが良い。 今では漠然と過ごしてきたが、今日の懇談会で住環境マップを見て、地域の環境に意識や注意を向ける必要があると感じた。 <p>住環境マップの利用方法及び地域の環境に関する意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治会地域周辺の道路では拡幅工事の予定があり、拡幅後には住宅地内の道路の交通量が増えると思われる。その際には、今回の調査結果を以前の交通量のデータとして行政に提出することができる。 正確なデータを見ることによって、悪い場所に住んでいるという意識が生まれ、同時に改善できないことへの無力感も生まれてしまう。 騒音や二酸化窒素などの規制が必要な問題もあるが、その気になれば改善可能な問題もある。特に、街灯照度の調査結果は、街灯の設置の際に参考になる。他に改善可能なことがあれば、教えてほしい。
--

60%」、「スーパーなどの商業施設ができてほしい：54%」などの利便性に関する項目への要求が高かった。

3. 住民との懇談会

2002年2月24日に堀の内町3丁目自治会館において住環境マップの懇談会を開催した。開催の告知には、同地域で月一回配布される町内会だよりを用いた。出席は自由参加とし、参加者は男性7名、女性3名の計10名であった。研究の目的や懇談会の趣旨の説明を行った後、これまでに作成した住環境マップを掲示・説明し、自治会住民からの意見・質問を収集した。

この会で得られた住環境マップや地域の環境に対する主な意見・感想を表1に示す。住環境マップは参加者から概ね好評を得た。表現方法については、「騒音レベルなどは数値だけではなく感覚で表されていると分かりやすい」などの住民の立場や感覚からの意見を聞くことができた。利用方法については、行政への提出や自治会活動で利用するなど具体的な提案があった。また、地域の環境を自ら良くしたいと考えても原因や改善方法がわからず、それを知りたいと考えている住民がいた。また、懇談会に参加し住環境マップを見たことで、地域の環境に対して関心が高まったという感想もあった。

4. まとめと今後の課題

本研究では、堀の内町3丁目自治会地域において、複数の環境要因からの実測調査を行い、地区スケールの住環境に関するデータを収集した。各調査結果を住環境マップとしてまとめ、住民に発表したところ概ね好評を得た。また、調査への住民参加を通じて、地域の環境に対する意識が高まったとの意見も多かった。

今後は、市報や新聞を通じて住環境マップの作成を希望する自治会を募集し、ケーススタディを重ね、本手法を精査する。

【謝辞】本研究を行うにあたり、ケーススタディ対象としてご協力いただいた堀の内町3丁目自治会の内藤会長、岩井副会長を始め住民の方々に深く感謝いたします。

*1 芝浦工業大学大学院修士課程

*2 芝浦工業大学大学院修士課程

*3 芝浦工業大学先端工学研究機構 客員研究員・博士(工学)

*4 芝浦工業大学システム工学部環境システム学科 教授・工博

Graduate Student, Shibaura Institute of Technology

Graduate Student, Shibaura Institute of Technology

Guest Researcher, Research Organization for Advanced Engineering, Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.

Prof., Dept. of Architecture and Environment Systems, Shibaura Institute of Technology, Dr. Eng.